生まれ変わる竜串 半世紀ぶりの観光開発

四国最南端の町、高知県土佐清水市。太平洋を一望できる足摺岬など、風光明媚（めいび）な景色を楽しめる県内有数の観光地として知られる。足摺岬と並ぶ、同市の景勝地が竜串湾だ。その周辺は今、半世紀ぶりの観光開発に沸いている。

サンゴや熱帯の魚が多く生息する竜串湾が、日本最初の海中公園に指定されたのは１９７０年のこと。２年後には足摺宇和海国立公園にも指定され、周辺には観光施設が次々に整備されてきた。中でも海中展望塔「足摺海底館」（１９７２年）や水族館の県立足摺海洋館（７５年）は開館当初から地域の観光をけん引。大勢の家族連れらでにぎわってきた。

だが、団体から個人へと旅行客の嗜好（しこう）が変わり、地域全体の観光者数は減少。施設の老朽化も進むなど苦難続きだったが、２０１５年に海洋館の建て替えが決定したことで、観光再興への追い風が吹きだした。

今年７月のオープンに向け整備が進む新足摺海洋館の愛称は「ＳＡＴＯＵＭＩ（さとうみ）」。「竜串全体が自然の水族館」をコンセプトに、ウミウシの常設展示や竜串湾を再現した大水槽など「足元の自然」を紹介する地域密着の館になる予定だ。

集客目標はオープン３年間で約４０万人としており、施設や自治体関係者は市内全体、周辺市町村への波及効果も期待する。

さらに同館の徒歩圏内には１９年４月に「スノーピーク土佐清水キャンプフィールド」がオープン。今年３月には地元の自然を紹介する、環境省の「足摺宇和海国立公園竜串ビジターセンター」が開館するなど、これまで以上に自然を満喫できる環境が整いつつある。

生まれ変わる竜串湾周辺をどう県内外にアピールし、にぎわいを取り戻すか。ハード面だけでなくソフト面でも官民一体となった模索が続いている。

高知新聞社　地域報道部清水支局　山崎彩加

今年７月にオープンする新足摺海洋館「ＳＡＴＯＵＭＩ」